

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 災害に備える

5 災害イマジネーションを鍛える
東京大学 教授
目黒公郎

8 家庭と地域の防災術
有限会社岡本石油内 防災クリエイティブマネージメント
防災アドバイザー
岡本裕紀子

12 ぶら〜り首都高めぐりの旅
7号小松川線の巻

13 データ物語
特定緊急輸送道路沿道の
建築物耐震化を目指して

14 Taste of the Season
森下典子

16 首都高HEADLINE

18 BUSINESS ESSAY
役に立たないことの向こう側にあるもの
旅作家
堀田貴之

20 つくる人まもる人
首都高ホールサービス東東京株式会社
北山秀一 平山則昭

22 高速百景 中野正貴

contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 38

首都高名所案内

アクアライン入口の 工場街

コラムニスト
泉 麻人

首都高速を使って房総の木更津の方へ行くとき、東京湾アクアラインに入る寸前に「浮島」の表示が現れる。そうやって通り過ぎることはよくあるのだが、まだこの町を訪ねたことはない。一度じっくり散策してみようと交通機関を調べたところ、川崎の駅前からそちらの方へ行く路線バスが出ていることを知った。東口のターミナルから出発する川崎鶴見臨港バスに乗車、車

窓に「銀柳街」という商店街の看板を見たとき、とある昔の映画を思い出した。舟木一夫のヒット曲を題材にした「仲間たち」。オリンピックがあった1964年の日活映画だ。ヒロインの松原智恵子がバスの車掌（乗っているバスと同じ臨港バスだ）役を務め、トラック運転手の浜田光夫と恋仲になる。そして、舟木一夫（庶民的な町中華のコック）も「相談役」みたいな立ち位置で

絡んでくる……という、川崎の工場街を舞台にした青春映画。松原と浜田のデートシーンで「銀柳街」の看板が写りこんでいた。

風情がある。よく見ると、「神奈川臨海鉄道 浮島町駅」なんて感じで、ホームこそないものの、一応駅の表示が立っていたりする。

今回訪ねる浮島の埋立地はまだできあがっていない頃だろうが、大工場（日本鋼管か？）の脇に市電の終着駅が見える桜本あたりと思しきロケーションもあった。

帰路は京急の大師線を使おうと、終着駅の小島新田に割合と近い大師河原でバスを降りて、周辺を歩いてみると、キングスカイフロントというニュータウンに出くわした。町の名は殿町、アメリカ西海岸のIT工業地のようなスマートな工場棟や公園の一角にレストランやカフェを融合したホテル（ザ・ウエアハウス 東急レイホテル）が建っている。

さて、バスは以前ここで書いた川崎大師の裏手をぬけて、産業道路から浮島通りに入っていくと、あたりはいよいよ京浜工業地帯の雰囲気になってくる。道の向こうに年季の入った球型タンクや筒型の工業装置が並び、道端に貨物線の線路が通っている。どことも懐かしい重工業地帯の風景だ。

ランチバイキングが楽しめるというホテル5階のレストランに行ってみると、マダム風のグループや情報に敏感そうな観光客でにぎわっている。そう、ここもすぐ裏手は多摩川の河原で羽田の空港景色が眺望できる。

終点（浮島バスターミナル）の1つ手前の浮島町公園入口という停留所降りて、この公園を探すと、見落としそうな入り口の奥の林の向こうに多摩川対岸の羽田空港を見渡す公園が広がっていた。滑走路を飛び発つ（着陸も）旅客機が目近に眺められる。

下流の方に近く新しい橋が架かるといふから、浮島あたりの町並も変貌していくのかもしれない。

表の浮島通りに出て、バスで来た道を引き返すようにしばらく歩いた。道端を直進する貨物線が枝分れして大工場の奥の方へと引き込まれていく……みたいなポイントはなかなか

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に「冗談音楽の怪人・三木鶏郎」（新潮社）がある。